

京都市立西京高等学校

エンタープライジングな グローバルリーダー育成プログラムの開発

【構想の概要】

本校が育成するエンタープライジングなグローバルリーダーは、次の4つの能力、すなわち、(1)物事を「問題化」する能力、(2)真の情報活用能力、(3)異文化や他者を受け入れる能力、(4)これらを確認なものとする教養と、本校の校是である「進取・敢為・独創」の気質を併せ持つ。

本校はこれらの多種多様な能力の育成を、アジア諸国における種々の「環境」をテーマとした課題研究を軸とする教育プログラム、指導法を開発することにより、可能なものにするをねらいとする。



平成 31 年度 教育課程表 (略表)

※両コース共通

1年	国語総合 (5)	世界史A (2)	数学 I (3)	数学A (3)	物理基礎 (2)	化学基礎 (2)	生物基礎 (2)	体育 (2)	保健 (1)	家庭基礎 (2)	IEC I (5)	EEC I (2)	情報学基礎 (2)	EP I (1)	LHR (1)
----	----------	----------	----------	---------	----------	----------	----------	--------	--------	----------	-----------	-----------	-----------	----------	---------

■自然科学系コース

2年	現代文B (2)	古典B (2)	地理A (2)	現代社会 (2)	数学探究 I (6)	体育 (2)	保健 (1)	芸術 (2)	化学研究 I (3)	物理研究 I 生物研究 I (3)	IEC II (4)	EEC II (3)	EP II (2)	LHR (1)
3年	現代文B (2)	古典B (2)	国語演習 (1)	地理B 公民演習 (5)	数学探究 II 数学演習 (7)	体育 (3)	化学研究 II (4)	物理研究 II 生物研究 II (4)	IEC III (4)	EEC III (2)	LHR (1)			

■社会科学系コース

2年	現代文B (2)	古典B (3)	世界史基礎 (2)	日本史B 地理B (3)	現代社会 (2)	数学 II (3)	数学B (2)	生物演習 I (2)	体育 (2)	保健 (1)	芸術 (2)	国語研究 I (1)	IEC II (4)	EEC II (3)	EP II (2)	LHR (1)
3年	現代文B (2)	古典B (3)	世界史B 公民演習 (4)	日本史B 地理B 公民演習 (4)	発展数学 (6)	生物演習 II (1)	化学演習 物理演習 (2)	体育 (3)	国語研究 II A (1)	国語研究 II B (2)	IEC III (4)	EEC III (2)	LHR (1)			

□「総合的な学習の時間」は「EP I (エンタープライズ I)」「EP II (エンタープライズ II)」とし、3単位(105単位時間)を配当する。

※()内の数字は単位数を示す。

□ 専門科目「IEC I」は、外国語科「コミュニケーション英語 I」の代替科目とする。

□ 専門科目「情報学基礎」は、情報科「社会と情報」の代替科目とする。

西京高等学校の理念

本校は平成15年に校名を京都市立西京商業高等学校から京都市立西京高等学校に改称するとともに、専門学科「エンタープライジング科」を創設し、「進取・敢為・独創」の校是のもと、社会で活躍、貢献できる人材を育成することを目標としている。平成16年には附属中学校を併設し、高校からの入学生も含め全員がエンタープライジング科の生徒であるため、スーパーグローバルハイスクール（以下SGH）の指定を受けた際も、全員がSGHとしての課題研究に取り組み主体的に学んでいけるよう、既存のプログラムを充実させ、外部機関と連携をとりながらグローバルな活動を行えるよう留意することを、校内での共通理解としてきた。教育課程表では、「エンタープライズ（以下EP）」が総合的な学習（探究）の時間にあたる。本校教員の約80%がその中で探究活動に関わったことがあり、まさに学校全体として行っている活動である。このEPにおいては、各プログラムの実施前に、教員に詳しくルーブリック等の評価指標を渡し議論の上、それを生徒とも共有してからはじめている。以下では、本校における総合的な学習（探究）の時間のプログラム開発の取組、それに伴う教科との連携や課題研究の工夫について論じる。

EPの流れと考え方について

1年次の総合的な探究の時間である「EP I」は、2年次の「EP II」から本格的に開始される「課題研究」の準備段階であり、中学から高校という学びにおける大きな変容段階における橋渡しとなるものと位置づけている。特に、生徒の生涯の学びにおいて、情報の受容者から生産者になる準備段階として捉え、課題の提示の仕方を中学校段階とは区別し「問い自体を見つけること」や、「科学をする」という学問的姿勢を養うことを目標としている。

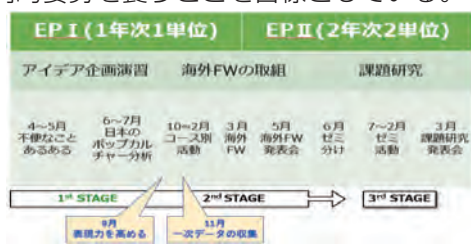


図1: H30年度「エンタープライズ（EP）」

図1のように、生徒の視点を少しずつ広く高く持

てるようにコンテンツを配置しながら、図2で示す探究のプロセスを繰り返す。1年次には身の回りの問題からより広く日本全体をとらえ、それを世界へと発展していけるよう、グループワークの仕方や、論文を書くにあたっての基本的な型を興味をもって楽しく学んでいける「アイデア企画演習」を配置し、本校の2年間のEPの中央に位置する海外フィールドワーク（以下海外FW）では「異文化＝他者を受け入れ、これに応える力」の育成およびそれに伴う「自己の変容」に関する客観的な認識を指導の柱としている。海外FWの行先を7コースから選択制とし、調査活動に問題意識を持って取り組める事前事後の研修を配列している。

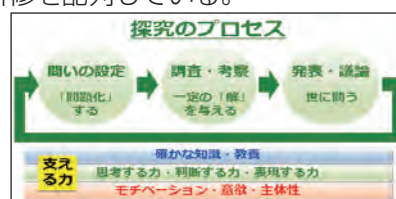


図2: 本校が提示している探究のプロセス

それらの集大成としてEP II 課題研究で、EP I で培った「問題化する力」をもとに問いを立て、「アジアの環境」を全体テーマとするグループ研究活動を設定し、テーマ設定から論文執筆、研究発表に至る研究過程を経験させる。具体的な環境問題で分類するのではなく、人文科学、情報学など大学の学部学科をイメージし、視点ごとに8つのゼミを展開し、教員以外に大学生・大学院生のティーチング・アシスタント（以下TA）も配置した。TAとして関わる現役の大学院生等に、研究に対する姿勢や論文執筆の具体的なアドバイスを受け、学びを深めることができた。

ASEAN Ecological Summit (AES) の実施

SGHの取組で育成し習得した能力等を評価・検証するため、海外FWで交流を深めたインドネシア、タイ、上海、マレーシアの提携校の生徒と教員、京都在住の留学生などを招き、第2学年の生徒全員が海外FWでの知見に関する英語ポスター発表と、「How has the “development” of a nation changed our “happiness”?’というテーマの議論を行った。AES開催のために実行委員会を立ち上げ、生徒・教員ともに活発な議論を重ね、英語専門科目EEC IおよびEEC IIにおける教育プログラムを課題研究という観点から再構築し完成させた。